

令和4年度

大阪府立水都国際中学校及び大阪府立水都国際高等学校

指定管理法人業務 事業報告書

## 1 特定公立国際教育学校等の概要

名称	大阪府立水都国際中学校 大阪府立水都国際高等学校
所在地	大阪市住之江区南港中2丁目7番18号（東学舎） 大阪市住之江区南港中3丁目7番13号（西学舎）
設置形態	学校教育法第71条に規定する併設型中高一貫校
設置学級数	中学校 3年6学級（238名） 高等学校 3年8学級（302名）

## 2 指定公立国際教育学校等管理法人（指定管理法人）の概要

法人名	学校法人大阪YMCA
主たる事務所の位置	大阪市西区土佐堀1丁目5番6号
代表者	理事長 末岡 祥弘
担当役員	理事 山根 一毅
担当者	課長 小西 雄希
連絡先	06-7662-9600
指定期間	令和4年4月1日～令和11年3月31日
報告対象期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

## 3 指定管理法人業務の実施状況

### (1) 管理運営上の目標

<教育目標> 「社会に貢献する協創力をみがく」 中高共通

主体性…強い意志と使命感を持って、自ら考え判断し、行動する資質・能力。

寛容性…多様な価値観やその背景を心広く、受け入れる資質・能力。

創造性…新たな価値を生み出していくことができる資質・能力。

<課題> 「国際社会で活躍し、大阪の経済成長をけん引する人材を育てる」

中高共通

<重点目標> 「実用的な英語教育並びに課題探究型の教育実践」

中学校：実用的な英語教育に重点を置き、自ら課題を発見し解決することを目的とした課題探究型授業を多く展開し、生徒の主体的に学ぶ力や豊かな知性の育成をめざす。

高等学校：IBのカリキュラムに対応できる英語能力の向上と、批判的（クリティカル）に課題を見つけ出し、解決していくスキルの修練と向上をめざす。

### (2) 具体的な取組とその結果

#### 1. 中高共通

##### ① 生徒・教職員が安心して生活できる環境づくりを行う

生徒主体による生徒の行動規範「Suito Model」をWell-Being部と生徒で作成し、生徒への日常の学校生活全般に活かされるよう、教職員の研修会を2回行った。また人権意識を

高めるため、特別授業を用いて、1学期は「いじめについて考える日」、2学期は「LGBTQIAに関する授業」、3学期は「Pink Shirts Day」の取組を行った。

②進路指導を強化する

年3回実施した海外大学説明会並びに年2回実施した留学カウンセラーによるカウンセリングを通して、海外大学等への進学について、生徒の興味関心を深めることができた。

③校務整理と人材育成を図り、教育効果の高い学校運営を行う

国際バカロレア（IB）ワークショップ研修及び探究型授業に関する研修に9名の教員が参加し、問題解決型学習の指導力が向上した。また、大阪府教育庁主催の研修にも6名の教員が参加し、指導力の向上や校務の理解が進んだ。

④開かれた学校づくりを行う

学校の特徴ある教育活動について、教員による出前授業を3回行い、外部への教育講演会を6回行った。

⑤助成金取得によるプログラム展開

三菱みらい教育財団の助成により「Suito Action Project for SDGs」という通年の講座を開講した。これは中1から高2までの学年を超えたプロジェクトチームを結成し、生徒たちが主体的にSDGs達成するためにどのようにして社会問題を解決していくかを探究する学習である。2年目となる令和4年度は、各プロジェクトの深化とアカデミックフェアでの発表を行った。

## 2. 高等学校

①学力向上

高校1年次の数学において、英語習熟度や数学の理解度に応じた習熟度クラスを設定した結果、高校1年数学の外部評価基準（GTZ）のC・Dゾーンの生徒の割合が昨年度より20%減少した。

②IB教育を推進する

高校1年生全員を対象にIBに関する基礎的な説明会を行い、その後、より強く希望する生徒や保護者対象の説明会も行った。またIB学習に関する生徒研修会を8回行った。結果、生徒、保護者のIB教育への理解が促進され、令和5年度高校2年IBコース選択者は21名になった。

③個性を見つけ、そのスキルを伸ばす

探究、TOKを通して、個々の生徒の興味の方向性を理解させ、成果発表の場を2回設定した。次年度は、学内だけではなく、学外のコンテスト等にも意図をもって積極的に参加していく。

## 3. 中学校

①個性を見つけ、そのスキルを伸ばす

中学校1年生の早期から3年間を見通したキャリア教育を実施した。中学校1年生はハローワークの講話、中学校2年生は職業講話、中学校3年生は進学講話、3学年全体講話として外務省職員を講師にお招きし講演を行った。

### (3)教育課程

1. 中学校教育課程について

別紙1-1 中学校教育課程表に基づいて実施

2. 高等学校教育課程について

別紙1-2 高等学校教育課程表に基づいて実施

### 3. 英語を用いた授業の実施状況

#### ①中学校

英語、数学、理科、グローバルスタディーズの授業で英語を用いた授業を行った。副担任にネイティブ教員を配置し、ホームルームの一部について英語を用いて実施した。

#### ②高等学校

英語、数学、理科、グローバルイシューの授業で英語を用いた授業を行った。副担任にネイティブ教員を配置し、ホームルームの一部について英語を用いて実施した。

#### (4)年間行事

別紙2の年間行事予定表に基づいて実施。

#### (5)入学者選抜の実施状況

##### <中学校>

日 程：令和5年1月21日

志願者数：414名

合格者数：80名

##### <高等学校>

日 程：令和5年2月20日、21日

志願者数：139名（特別選抜 132名、帰国生選抜 7名）

合格者数：81名（特別選抜 76名、帰国生選抜 5名）

#### (6)卒業者の状況

別紙3 進路・合格実績（令和5年4月24日現在）

#### (7)高3生（2期生）のIBスコア結果

##### 1 フルディプロマ取得について

・フルディプロマ取得率：100%

##### 2 科目サーティフィケート（IBコース生以外）について

・IB国語3名・IB歴史2名

#### (8)英語力の状況

##### 中学校

	CEFR A1	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2
中学1年	12名	3名	2名	0名
中学2年	7名	58名	14名	0名
中学3年	1名	42名	23名	5名

##### 高等学校

	CEFR A1	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2
高校1年	5名	51名	67名	24名
高校2年	2名	32名	30名	7名
高校3年	0名	5名	20名	4名

(9) その他処分の状況

処分等		中学校	高等学校
懲 戒	退学	0	0
	停学	0	0
	訓告	0	0
転入学、編入学		0	1
転出、退学		2	8
休学、留学		0	9

(10) 民間知見を活用した教育活動の状況

YMCA のネットワークを活用し、マレーシアのウーロンゴン大学・インティ大学・ティーラーズ大学との連携協議を行い、令和5年度の高校2年生のマレーシア海外研修打合せを行った。また同様にアメリカ総領事館との連携を通してハワイ州教育庁、ジェームスキャンベル高校との交換留学連携協議を行い、令和5年度の実施に向けた準備を行った。

(11) 教育上特別の配慮を必要とする生徒への支援等の状況

専門家を派遣し、特別支援委員会を定期的に開催し、当該生徒の学校生活の様子を把握し、対応している。また、生徒理解に努め、保護者の思いに寄り添い、個別の支援計画の作成を行っている。

(12) 管理施設の補修・修繕、更新等の状況

- ・新校舎体育館天井ボード雨漏り補修
- ・新校舎体育館紅白幕設置留め具増設
- ・新校舎受付事務ロールカーテン設置
- ・新校舎デッキ部窓の鍵増設

#### 4 職員の配置状況

##### (1) 教職員の配置状況（令和4年5月1日時点）

職名	中学校		高等学校	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
校長	1 * 中高共通	0	0	0
副校長	0	0	1 * 中高共通	0
教頭	1	0	1	0
主幹教諭	0	0	0	0
指導教諭	0	0	0	0
教諭	10	0	37	5 * 中高共通
養護教諭	1 * 中高共通	0	0	0
栄養教諭	0	0	0	0
実習助手	0	0	8	0
事務職員	1	0	23	0
学校用務員	1	0	1	0
計	15	0	71	5

##### (2) 外国人の教諭等の配置状況（令和4年5月1日時点）

職名	教員免許状	担当教科	担当校種	雇用形態
英語教諭（3名）	特別免許	英語	高等学校	常勤
数学教諭（4名）	特別免許	数学	高等学校	常勤
理科教諭（3名）	特別免許	理科	高等学校	常勤
指導助手（8名）	なし	英語・数学・理科・	高等学校	常勤
ICT職員(1名)	なし	ICT	事務職員	常勤

## 5 管理代行料に係る収支の状況

### (1) 収入

項目	金額
管理代行料	737,574,000 円

### (2) 支出

項目	金額
人件費	516,735,789 円
消耗品費	28,468,419 円
旅費交通費	4,107,748 円
通信費	2,161,082 円
賃借料	50,137,738 円
会議費	35,880 円
報酬・委託・手数料	7,873,268 円
光熱水費	19,227,418 円
管理委託費	36,913,570 円
保険料	2,117,270 円
租税公課	51,221,759 円
修繕費	1,515,404 円
渉外費	82,269 円
福利厚生費	11,192,385 円
研修費	1,344,014 円
雑費	48,510 円
広報費	2,860,525 円
諸会費	1,530,952 円
計	737,574,000 円

## 6 その他取組の状況

### (1) 個人情報保護の取組

- ・個人情報保護に必要な体制を整備し、適切に管理している。

### (2) 情報公開の取組

- ・学校 HP を活用し、積極的な情報公開を適切に行っている。

- (3) 教職員研修の状況等人材育成の取組
- ・教職員研修会及びOJT等を用いて学内での人材育成の実施
  - ・大阪府教育委員会主催の各種研修及び大阪YMCAの研修に参加
  - ・IBワークショップに参加
- (4) 入学希望者数増加に向けた取組
- ・学校説明会実施  
中学校：4回 / 高等学校：5回
  - ・外部団体等主催進学説明会等参加 年間19回
  - ・中学校出前授業3校、学校教員対象説明会4回
  - ・中学校訪問146校 資料送付 等
- (5) 大阪府の学校教育全体の拠点校としての取組
- ・7月・11月に大阪市教育センターにて、ICT教育促進のため指導者向け研修用ビデオの作成方法の説明を行った。
  - ・西日本地区ならびに九州地方のIB教育地域セミナーにて本校の取組を共有した。
  - ・大阪市外国語指導員研修の実施。
  - ・大学での教育講演の実施、学校訪問受け入れを多数実施。
- (6) IBに関する取組
- ・中学校で「数学」「理科」「国際理解（学校選択教科）」等、高等学校で「数学」「理科」「グローバル探究（学校設定教科）」等の教科等について、英語による指導（イマージョン教育）を実施。
  - ・CAS活動について  
青少年育成や奉仕に関して経験が豊富なYアンバサダー（YMCAのOBOG）とオンラインにて生徒と交流会や発表会を実施したことにより、生徒の様々なプロジェクトが改善されるとともに、学校外のコミュニティが本校のIB教育等についての理解を深める機会とすることができた。
- (7) 地域との連携、活性化に寄与する取組
- ・地域活動協議会（毎月）への参加
  - ・大阪市社会福祉協議会より講師を招き「ボランティア活動の魅力、身近な活動を知る」をテーマに講演を3月29日に行った。・南港さざんか海のまち協議会と協働し、毎月第一土曜日地域コミュニティの方々と清掃活動を実施。
  - ・南港さざんか海のまち福祉会館にて、毎月第三土曜日にふれあい喫茶ボランティアに参加。
  - ・地域の方々との交流を目的として、3月12日にふれあい交流会を実施。
  - ・CASプロジェクト報告会を地域の方を招待し、3月14日に実施。
- (8) 大学・企業等との連携の取組
- ・大阪公立大学と教育研究連携協定の覚書を取り交わした。
  - ・大阪公立大学からのインターン生受け入れを行った。
  - ・指定校推薦大学の確保増。
  - ・観光局との連携によりアメリカ／ブルックフィールドアカデミーの生徒受け入れ実施。
  - ・アメリカ総領事館との連携によって連携校の協議を行った。
- (9) その他の取組
- ・他自治体教育委員会の学校訪問 等